

令和7年度第1回花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議（会議録）

1 開催日時

令和7年12月19日（金） 午後3時30分～午後5時15分

2 会場

生涯学園都市会館3階 第2・3中ホール

3 出席者

(1) 委員出席者

高橋 豊委員、浅沼幸二委員、高田貞一委員、中村良則委員、
佐々木信明委員、田中 誠委員、漆沢俊明委員、佐藤 充委員、
藤田哲司委員、菅原康之委員、伊藤澄枝委員 以上11名

(2) 委員欠席者

小田島浩徳委員、小國奎馬委員、兼平俊亮委員、
和川 央委員、近藤清一委員、松葉孝博委員

(3) 市側出席者

上田東一市長、岩間裕子総合政策部長、粒針満秘書政策課長、
安部慎司秘書政策課課長補佐、八重樫尚孝秘書政策課企画調整係長、
沢口菜花秘書政策課主査、菊池遼秘書政策課主査

4 会議内容

(1) 開会

(2) 市長あいさつ

【上田市長】本日は、年末のお忙しい中、このようにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、令和7年1月に令和7年度から令和9年度までの第3期のまち・ひと・しごと創生総合戦略を作成したところではありますが、策定に当たりましては、有識者会議において、委員の皆様には様々な意見をいただいたところでもあります。本日はその第3期ではなくて、第2期の花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略、これ令和6年度までの戦略になっておりますけれども、こちらについて、4つの目標について実際に行った令和6年度分の効果検証を皆様にご意見をいただきたいということでもあります。また2点目でございますけれども、国の補助金である地方創生関係交付金。これは花巻市も受け取っているわけでございますけれども、このような補助金を受け取った事業について、5年間にわたる効果検証を年度ごとにするというのが国の方針でござ

ざいます。具体的に申しますと、地方創生拠点整備交付金については、令和2年度に実施した道の駅石鳥谷整備事業、そして令和3年度、4年度に実施した道の駅石鳥谷交流広場整備事業、そして令和3年度に実施したまちの駅石鳥谷酒蔵交流館整備事業について、この効果についてご検討をいただきます。そして、デジタル田園都市国家構想交付金、これは令和3年度から令和6年度まで実施したものでございますけれども、この補助金について令和3年度から実施した大迫高等学校生徒確保事業、令和5年度から実施した花巻市多文化共生まちづくり事業、令和6年度に実施したテレワーク等による多拠点居住推進事業でございますけれども、これらの事業について、令和6年度における効果検証を皆様に議論いただくということになります。そして、それら二つに合わせまして、花巻市の人口動態の概況と第3期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部改正について、事務局の方から説明させていただきます。これらについて、皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

(3) 座長選出

【岩間総合政策部長】 それでは座長が選出されるまでの間、暫時議事を進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。座長の選出につきましては、「花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱」の第5条第1項の規定に基づいて委員の互選により定めることとしております。同条第2項の規定においては、座長には本会議の議長となり、会務を総理するということが記載されております。選出にあたり自薦、他薦等ございますがどのようにお取り計らいいたしましょうか。ご意見がございましたらお願いいたします。

【高橋委員】 事務局案でお願いします。

【岩間総合政策部長】 事務局案ということですので、事務局から案をお示してください。

【粒針秘書政策課長】 事務局といたしましては中村良則委員にお願いしたいと考えております。

【岩間総合政策部長】 事務局からは中村良則委員の推薦がありましたが、これにつきましてご異議ございませんでしょうか。

【複数委員】 異議なし。

【岩間総合政策部長】 ありがとうございます。それでは座長は中村良則委員ということでお願いしたいと思います。なお座長に事故がある場合、また欠けた場合、「花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱」第5条第3項の規定においてあらかじめ座長が指名する委員がその職務を代理するとなっております。中村座長には職務代理者のご指名をお願いしたいと思います。いかがでしょうか？

【中村座長】 職務代理者は、和川央委員にお願いします。

【岩間総合政策部長】 座長から、職務代理者に和川央委員のご指名がございましたので、職務

代理者は和川央委員に決定いたします。それでは「花巻市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱」第5条第2項の規定に基づき、座長が有識者会議の議長となり、会議を総理するということになっておりますので、以降の議事の進行は中村座長にお願いしたいと思います。ご座席の移動をお願いいたします。

(4) 議事

【中村座長】 それでは、議事を進めてまいります。次第の4、議題の(1)花巻市の人口動態の概況について、事務局より説明をお願いいたします。

《粒針秘書政策課長より(1)花巻市の人口動態の概況について説明》

【中村座長】 ただいまの説明につきましてご質問、ご意見のある方は、挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。では僕の方から一つ。5ページですが、社会減として98人、65人、129人というふうに減少になっていて、今度の時期がプラスだった。でも再び減少になった。次の6ページを見ますと、21歳から24歳の人たちの転出が少し増えている。要するに就職のときに出ていく人が多いということだろうというふうに思います。この辺は事務局としてどう捉えているか。補足的にご説明いただければなと思います。

【粒針秘書政策課長】 社会増減部分についてでございますが、平成30年まではずっと減少でしたわけですがけれども、コロナの期間につきましてはプラスに転じて、また再びコロナ明け後に減少に転じているというような状況でございます。コロナの時期につきましては全国的に人の流れの抑制が働いたということも要因にあると思っております。特に転出要因は若者世代の転出が多いということで、この辺は我々も、人口減少の中でいわゆる自然減の進行とともに、大きな課題であると認識しております。若い人たちにとって魅力のあるまちを作っていくこと、このことに尽きるわけですがけれども、具体的に申し上げますと、いわゆる働く場や、あるいは移住定住支援ですとか、まちの魅力の向上も非常に大事な要素であると思っております。移住定住に関しては様々な支援等も行っておりますし、まちの活性化としまして今取り組んでいるのはJR花巻駅の橋上化ですとか、新花巻図書館の整備です。また、イトーヨーカドーの跡地にシーナシーナがきていただいて、連日大変多くの人で賑わっていると聞いております。やはりそういう街中で魅力あるコンテンツがあるということも非常に重要な要素になってきておりますので、その点をこれからもやっていきたいというふうに考えております。

【中村座長】 ありがとうございます。他にどなたかございませんでしょうか。それでは特段ご質問ご意見ないようですので議題(1)については終了いたします。続いて(2)花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和6年度効果検証について事務局より説明をお願いいたします。

《粒針秘書政策課長より(2)第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和6年度効果

検証について説明》

【中村座長】ただいまのご説明につきましてご質問ご意見等はございませんでしょうか。はい、どうぞ。

【漆沢委員】ご説明ありがとうございます。ちょっと感覚的なところなのですが、この基本目標の1から4の中で、このKPIの評価について、1・2・3はまあまあなわけですが、基本目標4に関しては、△（三角）が非常に多く見えます。項目数も多いということかもしれませんが、この基本目標4の△（三角）が多い原因と伺いますか、この辺はどのように市の方では評価なさっているのか伺いたいと思います。

【中村座長】只今のご質問いかがでしょうか。事務局お願いします。

【粒針秘書政策課長】基本目標4「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」についてKPIが伸びていないというようなご指摘でございますが、ご指摘のとおりでございます。先ほどの社会増にするためには魅力的なまちをつくっていくということが非常に重要な要素だと申し上げたところであり、特に若い人たちに市内に定着していただくためには、こういったことに力を入れて進めていく必要があると思っております。ただ、今まさに手をかけております図書館整備ですとか、橋上化ですとか、あるいは花南地区の方に新しいショッピングモールの動きというのもございます。またロピア花巻さんといった非常に集客力の高い企業も入ってきております。今既にあるものと、これから令和10年から12年にかけて橋上化や図書館整備などによって、さらに魅力が高まることで、こういった数値も伸びるのではないかなというふうに思っております。

【中村座長】ありがとうございます。他にいかがでしょうか。どうぞ。

【佐藤委員】4ページの「花巻市への新しい人の流れをつくる」というところの重点方針2中段下辺りですね。こちらで、実績値の評価が◎（二重丸）がついております、市内高校卒業者の市内事業所への就職率が、目標値が38%という中でありますと、結果として52.7%となっており、このような数字がほかの結果からすれば、パーセンテージ的に大きくなっているのですが、実質的に就職人数とか、学生等々の人数が減ってくると母数も変わってくるので、この辺りが多分右の枠の中に書いてあるような活動などの影響もあったと思うのですが、この効果が上がったことについて事務局的にどのような考えをお持ちかお話を聞きたいと思っております。よろしく願いいたします。

【中村座長】事務局、お願いいたします。

【粒針秘書政策課長】市内高校卒業者の市内事業所への就職率ということで、今回は目標値を大きく上回る数字となっており、要因の一つとしましては、商工観光部の方で、市内の企業にご協力いただきながら、高校生を対象とした企業訪問の場を設けたことなどが非常に大きく起因しているというふうに思っております。やはり高校生に、市内の企業の魅力をお伝え

する活動を地道にやっていくこと、そのことで数字が伸びてきているものと思っておりますし、今後も継続してまいりたいというふうに考えています。

【佐藤委員】ありがとうございます。今お話がありました企業見学バスツアーということで、私も勤めている会社の方でも参加させていただきまして、ただ今回実施したものは、多分昨年や前々から、ぜひ企業とそういう高校生を引き合わせるような何かをやってほしいというような意見があり、実施していただけたのかなと思っております。特に会社としては、何をしているか、イメージを持ってもらう機会を作ってもらったのがすごい大きかったと思っております、参加している私達もとても良い機会であったというところと、この目標に繋がっているのであればぜひ今後もこれを拡大して、高校生たちにどんな仕事があるのかどんな楽しみがあるのかというところを、市がバックアップして広げていければいいと思います。ぜひ今後もよろしくお願ひしたいと思ひます。

【中村座長】他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

【伊藤委員】5ページのところの助産師等確保対策事業で産科医師1名って書いてありますけど、そこのところちょっと詳しく聞きたいこと。あと、産科医療機関へ通院する際の交通費の助成ですが、思ったよりも利用しているというふうに思いましたが、やっぱり中部病院とかそういうところに行くのでしょうか。

【中村座長】事務局の方お願ひいたします。

【粒針秘書政策課長】助産師等確保の産科医師1名というところについては工藤医院さんの方に1名とのことですよ。

【伊藤委員】2名いらっしゃるということですか。

【粒針秘書政策課長】常勤の方が1名で、あと非常勤の方もいらっしゃる状況というふうに認識してございます。

【伊藤委員】交通費支援事業255人って書いてありますが、車は皆さん持っている中で結構使われていると思ったのですが、中部病院とかに行かれるとかが多いのかなと思ひましたが、どこへ通っているのかお聞ひしたいなと思ひました。

【八重樫係長】この交通費の助成ですが、制度を拡充し、家の近くの宿泊とかも制度の対象にしたりと、そういったところで件数が増えているものと思ひます。

【伊藤委員】そのようにいろいろと工夫していただければありがたいなと思ひます。分娩とか結構厳しい花巻市になっているようにお聞ひしますので、本当に安心して出産できると非常にいいなと思ひております。

【岩間総合政策部長】市内の出産の状況で申し上げますと、最も多いのは工藤医院での出産、

その次が中部病院、そのあとは盛岡方面ということになっております。工藤医院と中部病院での出産が一定数を占めていると認識しております。

【中村座長】他にいかがでしょうか。それでは議題（２）については終了いたします。つづいて（３）地方創生関係交付金活用事業の実施状況報告について事務局より説明をお願いします。

《粒針秘書政策課長より（３）地方創生関係交付金活用事業の実施状況について説明》

【中村座長】何かご質問ご意見等あれば挙手をお願いいたします。どうぞ。

【佐々木委員】４ページの大迫高校の支援に関してお伺いしたいです。今年県の教育委員会の方から来年度から１０年間の再編計画等が出ている。大迫高校の県外留学ということで一生懸命やっているところなのですが、外部から呼び込むというのもやっぱり限界があるだろうというふうに私も高校側としては見ているわけで、やっぱり一番の問題は地元からの入学者が非常に少ないと。そういうふうな中でこれは花巻に限らないし他の市町村も小さい学校もそういうところあるわけですが、花巻市として今後、どういうふうな見通しを持って大迫高校の支援を続けていくのかなというところをちょっとお伺いしたいなと思っておりました。

【中村座長】はい。答えられる範囲でお願いいたします。

【粒針秘書政策課長】こういった形で他地域からの留学に対して力を入れて実施しているわけですが、そもそも地元からの入学生が少ないこと、その要因で最も大きなものは絶対数が少なくなっていることにあるというふうに思っております。非常に厳しい状況ではありますけれども、地域にとって花巻市全体にとっても非常に大事な高校であるというふうに認識しておりますので、引き続きこういった交付金を活用した事業も行いながら、様々な要望活動なども実施していきたいと考えているところです。

【佐々木委員】ありがとうございます。小さい学校でもやっぱりその地域にとっては大事な学校だということがありますし、この間の青雲の方の募集停止に関しても、市長さんはじめ県教委の方の陳情があったようですがけれども、市の方としてもできる限り支援をしていただけると我々サイドとしてもありがたいなと思いますのでよろしく申し上げます。

【中村座長】はい。他にいかがでしょうか。では私から一つ確認ですが、No. 4以降については、6年度事業はしてないから、No. 4、5、6の事業については達成度は、ほぼ自動的にCとかそういう判定になるということによろしいのでしょうか。例えば8ページ目ですが、中心商店街の賑わいづくりに関する取り組みですが、④の事業実績⑤の事業費実績はありませんので、したがって判定は自動的に当然CとかBになるものだから、⑧の達成でも基本的には自動的にほぼCになると。

【沢口主査】このNo. 4、5、6の事業については、実施した年度から向こう5年間、KPIを追い、建物を建てたその後の効果を追跡して評価しなさいということになっておりますので、事業費はないのですが、設定した指標につきまして、向こう5年間毎年判定しているものです。

【中村座長】今のお話だと、6年度は事業は実施していなくても建物を建てているわけだから、その効果について検証したということですけども、5年間毎年同じ指標値なり目標値で評価するのはなかなか厳しいことではないかと思しますので、実際的には作る事業費を計上していない6年度に関する単年度の評価というのは、ほぼ自動的に目標達成できないということになるんじゃないかと思いました。

【岩間総合政策部長】ここにつきましては令和6年度の事業実績等はありませんが、指標の1から3について、それぞれの目標に対する令和6年度の実績値というのは当然ありますので、例えば9ページの場合、指標の①広場の利用者数については、個別判定ではa。指標の②の広場における出店の売上高については目標を下回ってCという評価になった。指標の③もCという評価になった。aとCが二つになり、自動的に全体評価が計算されてC評価になりますということになっております。ですので、例えばここが令和7年度に出店の売上げが令和6年度よりも増えれば、個別判定がbとかaになり、全体の評価もAやBに変わるところになるという考え方でございます。

【粒針秘書政策課長】このNo. 4から6に関してはいわゆるハード整備の部分になっておまして、ハード整備しているときはそれをしっかりやっていくわけですけども、一番大事なことは、ハードができた後に例えば利用者数であるとかそういった指標がどれだけ伸びていくのかといったことであり、指標についてもハード整備後に伸びていくような指標を設定して、それを検証しているというような形になっています。

【中村座長】そうしますとこのCという評価はあんまり高い評価ではないということですね。あともう一つ。事業のNo. 2ですけども、テレワークハイブリッドワークで来訪・再訪云々ですけども、インフルエンサーを招聘して様々な事業を行ってUIJターンを増やしたいと、それから「まきまき花巻」ホームページにおける閲覧数これは若干理解できるんですけども、インフルエンサーとこのUIJターンの効果はCという形になっているんですけども、元々やっぱり率直に言うとなかなか難しい事業だったんじゃないかという気がするのですが、その辺はどういうふうの評価されてるかお聞かせいただきたいです。

【粒針秘書政策課長】この事業につきましては、おっしゃる通りなかなか効果が難しい事業ということもありまして、当初もう少し複数年で実施する予定でございましたけれども、1年間でやめるというような判断をした事業になっています。

【中村座長】わかりました。では他の方がいかがでしょうか。では(3)については以上で終了

といたします。では続きまして（４）第３期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部改正について事務局より説明をお願いいたします。

《粒針秘書政策課長より（４）第３期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部改正について説明》

【中村座長】何かご質問ご意見等ございませんでしょうか。どうぞ。

【漆沢委員】この後ちょっと進め方がわからないのですが、２点です。１点目は、花巻市人口ビジョンの中の、４０ページをご覧くださいと思いますけども、３９ページから市民調査の結果っていうことで記載されているものでして、これの②の４０ページの上、「若い世代に魅力的なまちになる取組」というところを拝見しますと、一番は「まちなか再生と利便性の高い快適な暮らしを実現する生活基盤の整備」とか、次が「次代を担う子どもたちが健やかに育つための保育・教育の環境の充実」、そして「産業を支える労働力の確保」と「結婚から出産のライフステージへの支援」というのが高い数値としてあがっております。それに対して右側の４１ページの優先度に関して、この兼ね合いがどうかというところは今ひとつ読み取れなかったのですが、この辺をまず意識しなきゃいけないだろうということを意見として申しあげます。それからこの戦略の一部改正についてですが、この中に入っているかわからないのですが、今はもうＡＩなしで考えられない時代になってきているというところから、私も少しＡＩは勉強してるのですが、ＡＩの活用というのはどの程度市の方では考えているのか。実は先ほど、資料の３の参考で、ＡＩチャットボット利用回数と一番下の回答完了率、どちらも未達成になっています。要は、利便性の影響だと思うんですが、これが未達成になっているのは、それを利用するための誘導ができてなかったということじゃないかなというふうに思います。昨日も個人的にＡＩの勉強会があり、その中でもやはりＡＩを使っていかなければ利便性を図れないと。使っている人と使っていない人の差が大きく出てくるということで、なので、市として、ＡＩの活用に関して計画というのはいかに考えているのか伺いたいと思います。

【粒針秘書政策課長】ＡＩの活用につきましては、我々も日常の業務の中で非常に重点的に取り入れております。例えば議会の一般質問があった際にも答弁案としてまず骨子のようなものを、生成ＡＩを活用して作成したりとか、あるいは様々な会議の予定で想定Ｑ＆Ａだったり、膨大な資料を要約して表現するとか、そういったものでＡＩの力を借りて、業務の中に取り入れておまして、どんどんこれから推進していくことで進めてございます。また市民向けのサービスにおいても、ＡＩを活用したサービスというのは、今はそもそも事業者さんから提案されるサービスの多くにＡＩの力が入っています。交付金を活用した事業の中で、ＡＩチャットボットがございますけれども、これは市のホームページの中にフラワーロールちゃんがいる、そこをクリックするとフラワーロールちゃんが質問するような形で自分がたどり着きたい情報にたどり着くというような形になっております。一定のメニューからたど

らなければいけなかったものが、あらかじめAIにシナリオを勉強させており、違った角度から入ってきた質問をAIが判断をして提案をするような、そういった仕組みを取り入れたものでございますが、これが未達成になっておりますのは、昨年度の11月過ぎに運用が始まったため伸びていないものであり、現在ではだいぶ利用率が上がってきているものです。また、あわせてホームページを見やすいように整理することも行い、そのことによってAIの力を借りなくても目的ページにたどり着けるというような方も結構多かったという面もあります。必ずしもチャットボットが使われなかったこともマイナスではない面もあるかなというふうに認識しておりますが、せつかくの機能でございますので、ぜひ市民の皆さんにもたくさんご利用いただけるようにPRしてまいりたいと考えております。

【中村座長】 あともう1点。人口ビジョンの方で40ページ41ページですが、若い世代に魅力的なまちになる取組で、アンケートをとってみると、若者の要求は具体的な項目として、快適な暮らしができる生活基盤の整備とかそれから保育教育環境、これが41ページの4つのマスの方で重点的に進める政策第一グループがぴったり対応しているかどうかと、こんなことだというふうに思うのですけどもどうでしょうか。

【漆沢委員】 1番の生活基盤の整備という「まちなか再生と利便性の高い快適な暮らしを実現する生活基盤の整備」っていうのが要望としては一番高い。これが右側に来ると、どこにあるのかなど。地域主体のまちづくり、魅力的なまちづくり、これが下の左の縦線の左の下の方にあるという形になっているので、今後若い方々の要望というのは優先度も高くなっていくんじゃないかなとちょっと感じたものですから質問させていただきました。

【中村座長】 41ページのグラフ自体も市民に聞いた結果を取りまとめたものだということで、だから40ページのアンケートの回答とぴったり一致しているわけでもないかなというところがあるかとは思いますが。

【漆沢委員】 それが新たな計画の中ではどのように扱われているかということです。

【粒針秘書政策課長】 確かにアンケートをとった若い世代の結果が必ずしも右側のグラフの中で優先度が低いところもあるかというふうには思いますが、出していただいた意見を、可能な限り市が優先すべき事項とのすり合わせをした上での結果でございますので、このいただいた意見について、それを踏まえたうえで優先度をつけて施策をつくっているというふうな認識です。

【漆沢委員】 AIに関してはですね、いずれ内部で使ってももちろんだと思いますが、むしろ、市民に対してひらいていくといいますか、やはりそこを意識した取り組みが必要だというふうに思っております。

【中村座長】 では他にいかがでしょうか。どうぞ。

【高田委員】 ちょっと統計と違うところがうちの場合はでていますので参考にお話しできれば

と。前よりも人手不足はないです。一部業種が足りないですけど、でも全般的に前に比べれば良くなっていて、今年も若い女性は、途中入社と新卒と入れて5人採用できているんですが、全員寮です。花巻市の子じゃなく他市町村から来ている。過去の例を見ても、2、3年で辞める子もいれば、7年8年と長くいる子もいて、長くいる子はいつの間にか市内の方と結婚するというのは多々ある。ということで、とっかかりとしてはやっぱり住むところだと思う。今の若い方は仕事終わってまで職場仲間と一緒にいるのを嫌うということもありますけれども、やっぱりその若い方々は寮とか、社宅とかにある程度補助などがあるといいのかなと。定着すれば住民税で帰ってくるということもあると思いますので。もう一つはうちの会社ではネパールの方が7人います。そのうちの1人が国際交流部門にいて、技能生で3年の縛りがあるんですが、今のところ継続予定で、1人は一番上の資格で家族も連れてくる資格あるから家族を連れてきて市内に住んでいる。奥さんが就労週28時間の時間制限があるからパートさんとしてうちで働いてもらって。その方なんかは、運転免許も日本で取っていた。そういう方もいます。おそらく花巻市内に、いろんな国から来ている方々も増えているんじゃないかなと。さっきの人口の中ではそういう海外の方も入っていると思いますし。あともう一つ結婚について、誰かから聞いたのですが独身のまま一生を過ごすという文化ができちゃったんじゃないかと、日本全体の話ですけど。たださっき言った通り、他市町村から来てうちに住んでいた若い女性が花巻市の方と結婚した事例が過去多々ありますので一概に言えない部分もある。あとこの頃は結構マッチングアプリなんかでね、結婚すると。その辺もやっぱり変わってきているんだなと思っておりました。参考までです。以上です。

【中村座長】確かに技能実習の方々は確実に増えているのは間違いないこと、ただ人口にカウントされないところがあるかもしれませんね。その辺も参考にされて、そういう社会的な変化というのを踏まえて、これからのまちづくりなり人口のあり方などを考えていくことが必要かなというふうに思います。それでは時間の方も過ぎましたので、本日の議題については以上で終了したいと思います。よろしいでしょうか。はい。市の方では今日出た様々な意見を参考にして事業を進めていっていただければというふうに思います。

(5) その他

(特になし)

(6) 閉会